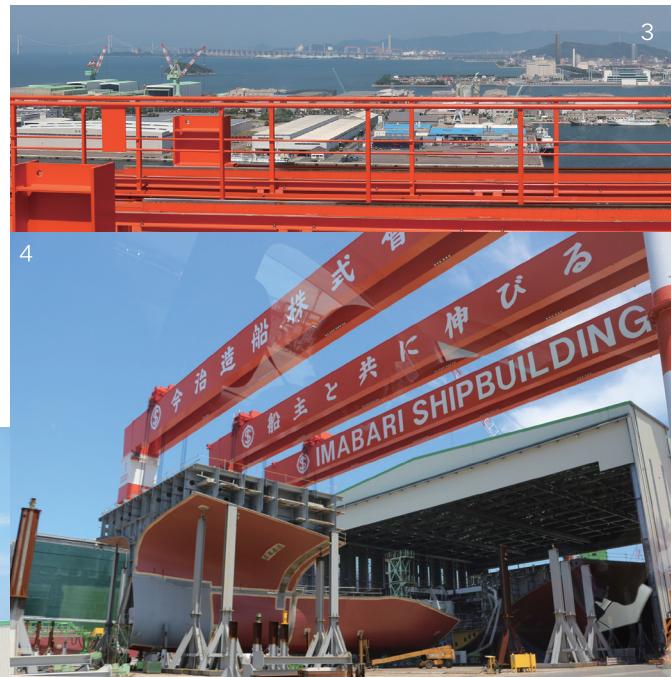
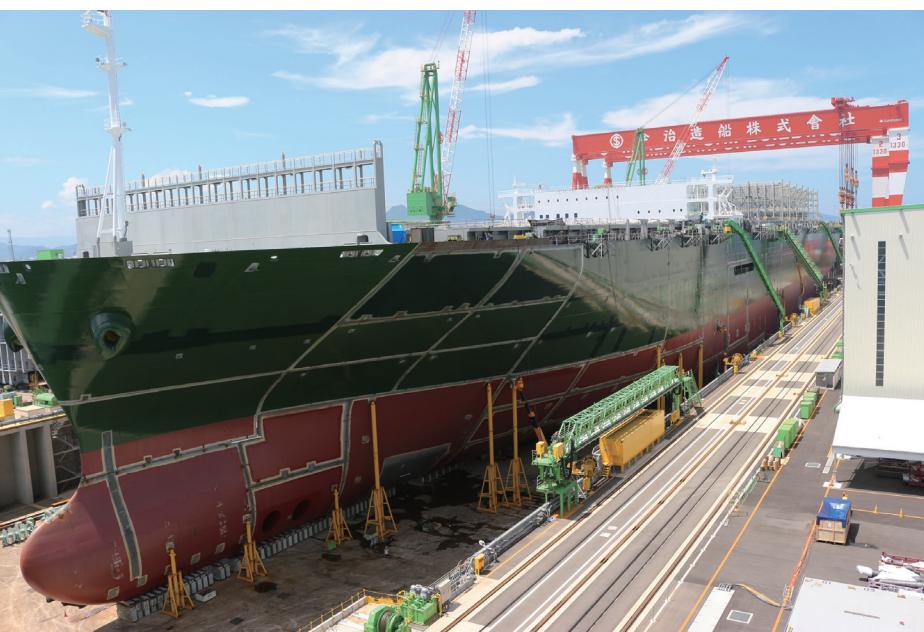




# 世界に誇るMade in 丸亀 今治造船がスゴイ

丸亀市のいたるところから見えるオレンジと白の巨大な門。今やお城、飯野山と並んで目立つランドマークになっているのが今治造船のクレーンです。そしてそこは、世界最大級の貨物船が生まれる「ゆりかご」だったのです。

取材協力:今治造船株式会社 丸亀事業本部



世界の約6%のシェアを  
誇る今治造船

3基のクレーンがそびえる工場は、昭和町にある「今治造船丸亀事業本部」です。創業は1971（昭和46）年。本社は今治ですが、現在はこの丸亀事業所本部が主力を担っています。

この「門」の形をしたクレーンは、旧約聖書に登場する巨兵「ゴリアテ」から

360度見渡せます。

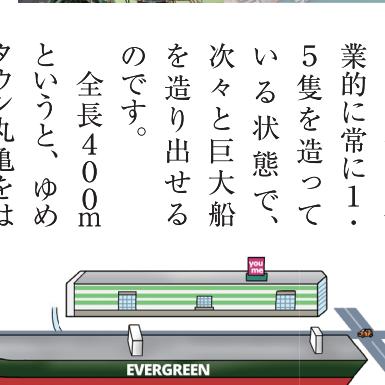
工場の敷地面積は75万m<sup>2</sup>。図のとおり、宇多津町の浜街道から北の部分がほぼすっと入る広さ。ここで約2500人の従業員が働いています。

最近は、現場で働きたい！という女性が増えているそうで、20～30代の女性が4人、現場監督として活躍中。中には、「設計図の上だけでなく、実際に大きな鉄板自分で曲げたい！」と申し出た女性もいるそうです。

世界最大級の船を  
次々と造り出せる秘密

丸亀事業本部には、昨年秋に超大型ドックが完成しました。長さ610m、幅80m、深さ11・7mのこの第3号ドックは、全長400mという世界最大級の2万個積みコンテナ船が造れ

※「フリモAR」アプリを起動して表紙にかざすと、今治造船のCMと大型貨物船のPVの動画が見られます。詳しくは前のページの「CONTENTS」をご覧ください。



る大きさ。しかも、流れ作業的に常に1・5隻を造つて

いる状態で、次々と巨大船を作り出せるのです。

全長400m

というと、ゆめタウン丸亀をはるかに凌駕する大きさ。そん

な大きな船に積むエンジンも想像以上で、重量2300t、小さいマンション1棟分くらいの大きさがあるそうです。

何より驚くのが、この世界最大級の2万個積みコンテナ船、乗組員は30人程なんだ

そうです。最新鋭の大型船は自動化や電子化が進み、人手がなくとも船を安全に走らせることができるからです。

## 世界に誇れる 今治造船の技術

造船のオートメーション化が進む中でも、どうしても人の手でしかできない工程があります。それが、美しい船首の曲線部分などです。最大80mmもの分厚い鉄板を、バーナーで均一に熱して曲げていく——これは日本特有の技術。

海外では機械でプレスして曲げることが多いのですが、人の手だとより確実に美しく曲がります。丸亀の工場でも、完全に1人で最初から最後までこの作業ができる人は2、3人しかいないのだとか。経験がものをいう熟練の技ですね。現在、後続を育成中とのことです。

そしてもうひとつ注目したいのが、丸亀事業本部に「船型開発センター」が完成したこと。これは2つの水槽がある実験施設で、模型の船(6m)を使ってさまざまなデータを取りることができます。

「船型開発センター」の完成で、実験から設計、製造まで一貫してスピード的にできるようになります。実

際、丸亀事業本部には設計技術者が360人もいて、ここで開発された日本初の技術を搭載した船もあるそうです。

## 世界を動かす 今治造船・丸亀工場

今日、この工場で生み出されている超大型のコンテナ船は、これから地球上のあらゆる海を縦横に行き来します。食品、衣料、家電、日用品など私たちの周りにある外国製品のほとんどがこういったコンテナに載つて世界中を流通しています。

「船よりたくさん荷物を積めるものはありません」と、常務取締役・丸亀工場長の和田晋也さん。「世の中一番大きなものが造れるというのが造船業の魅力です」。今治造船丸亀事業本部で生み出されたメガコンテナ船、まさにMade in 丸亀が世界を動かしている——。これは、間違いなく地元の大きな誇りです。